

ねじりはちまき

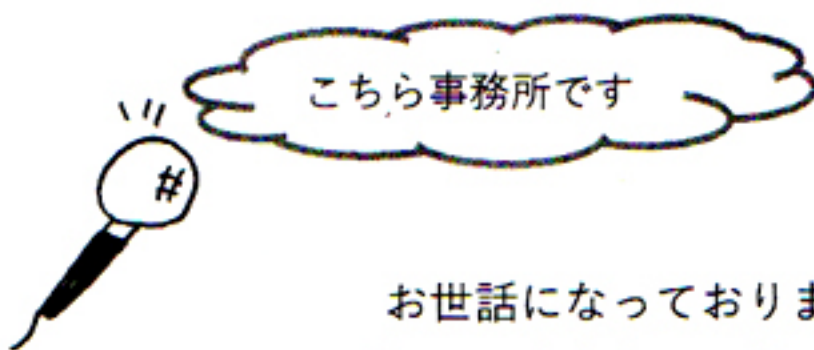
2月 如月 立春 雨水の月になりました。
2月3日節分で、豆まきです。4日 立春、7日 初午、11日 建国
記念日、14日 聖バレンタインデー、19日 雨水です。
今年は閏年で、今月は29日まであります。

令和という時代になって最初の正月でしたね。
それに、十二支でも最初のネズミ年です。最初というのは何かめでたいという
感じがしますね。

ネズミはなぜ十二支の一番なのか、ご存知の方も多いかと思います。
お釈迦様に先着順に…ということになったので、日にちを聞かれたネコには
うその日を伝えて、なんとネズミは牛の背中に隠れて乗り、お釈迦様の前に着いた
とたんピョンと飛び降りて一番になったそうです。ネコは遅れたため十二支には入れ
なかった。そのため今の時代になっても、ネコはネズミを許さないということだそう
です。

寒さはこれからです。十分ご自愛下さい。

幸田 常一



お世話になっております。
昨年より本宮市の現場で、水害による復旧工事をさせていただいて
おります。

面倒くさいということ

今回は「面倒くさいということ」を取り上げたい。何でこんなテーマを取り上げようとしているのか。改めて考えてみると、「面倒くさい」とはどういうことを指すのだろうか。国語辞典を引くと、先ず「面倒」がでてくる。そして「面倒くさい」は「非常に面倒な」との解説なのである。それでは「面倒」とはどういうことか。「面倒」とは、「物事をするのがわずらわしいこと、手数（時間）がかかること」と解説されている。この「手数・手間がかかる物事をする意味合い」について改めて考えてみたいということだ。効率化、機械化（AI化）がどんどん進む現代においてアンチ現代文明ではないが、手足・体を使って時間をかけて物づくりなどをするのは人間にとってどういう意味合いをもつのか、今回はそのことを探ってみたい。さてどんな展開になるのだろうか。

先ず、人間はどう意識して肉体を使っているのだろうか。意識してとなると、ウォーキングとかスポーツとかが挙げられる。でもその時「面倒くさい」と意識するだろうか。「健康のため」、「成績向上のため」という目標があれば、「面倒くさい」と意識されることは先ずないと思う。では、「面倒くさい」と意識されるのはどんな場合か。それは、何かと比較がなされて生ずる意識ということになるか。例えば、ウォーキングではなく、徒歩でどこかへ行くとなると、「時間がかかる、疲れる」と言っ、て、自転車や自動車を選ぶ。自転車も肉体を使うので坂道はしんどい、そこでつい肉体を使わない、楽で便利な自動車を利用してしまふ。距離が長ければなおさらだ。ガソリン自動車はCO2を排出するもお構いなし、現代はスピード化、迅速な対応が競われる。ましてや業務上においてはいうまでもない。300年遡る江戸時代前期に松尾芭蕉が「奥の細道」を歩き通したことなどとても想像もできない。しかし、その道中で自然や風物に触れてすばらしい句を詠んで遺している。自分の体験からも言えるが、車に乗らず散歩していると、咲いている花々や鳥の鳴き声、水の流れと自然とのふれ合いがあり、人との出会いもあって挨拶を交わすなど心がほのぼのと温かくなる。スピードを出して目的地にひたすら向かうのとは自ずと違った趣がある。自分の体験からもうひとつ。草刈りのことだ。我が家の屋敷は結構広い。宅地以外の庭ともつかぬ屋敷森ともつかぬ土地の広がりがある。冬以外は当然草が繁茂する。そこで草刈りをするのだが、その時草刈機を使うか、鎌を使うかである。結果的には両方使っている。「面倒くさい」のに何故鎌を使うかという、と、鎌を使うと草の観察が良くできるのである。それが結構楽しいし、残しておきたいものを残せる。去年はネジバナが数多くあちこちに咲いてくれたので、その周辺は鎌を使って刈った。どこから種が飛んでくるか、鳥が運んでくれるか、年毎に新たなものが登場してくれるので観察するのが楽しみである。

ところで、「手間がかかって面倒くさい」と言う場合、「手間がかかる」＝「面倒くさい」なのだろうか。「手間がかかることをやっている本人」は「面倒だ」と思っているのだろうか。傍目で見ている方が「面倒くさいこと」と思うかも知れないが、それをやっている人は「やりがいがある、楽しい」と思っているかも知れない。知れないではなく、「やりがいがある」と思っている人が多いに違いない。特に伝統の手工芸の分野では、手作業の部分が多い。漆器でいうと、塗りの工程では下塗りで「塗り・乾燥・研ぎ」を何回も繰り返し、上塗りでは均一の厚さで塗りを仕上げて一定の温度・湿度の下で乾燥させて塗りの工程が終わる。この工程だけで3ヶ月ほどかかるというのだ。大変といえば大変な作業である。もう一つ陶器の工程は、土づくり→粘土で成型→半乾燥→削り・細工→乾燥（約2週間）→素焼き→釉薬づくり→絵付け・釉薬かけ（1週間）→本焼き→最後の処理（ヤスリかけ）という手順を経て、1ヶ月から1ヶ月半かけての仕上がりとなる。これまた大変な手間だ。もう一つ機（はた）織りについて。織物は経（たて）糸と緯（よこ）糸の組み合わせで作られる布地である。織る作業としては、経糸に杼（ひ）を用いて緯糸をくぐらせて通して

編んでいく。そのひとつひとつの、数えきれない手作業の積み重ねによって、その糸のもつ色合いを生かし布地が、様々な模様を織り込んで仕上げられるのだ。藍染や草木染の糸を用いれば、染料となる藍（栽培もの）や草木（天然もの）を入手し、染料を生成し、糸を染め上げるまでにかかなりの手数がかかる。でも、仕上がったものは人に何とも言えない感動を与える。伝統手工芸品はいずれも自然素材を用い、しっかりした出来でしかも芸術的センスに溢れている。世界各地の民族衣装などは、共通してそれを物語っている。根気のいる手作業の一つとして、絞り染の絞りの作業がある。生地をつまんで糸で括（くく）る作業である。括った部分（粒）は染色のとき色が染まらず、白く残るため、絞りの模様となる。絞りは職人が丹念に生地を摘まんで絞りを繰り返して作られるが、その粒の数は一つの振袖で約20万以上に及ぶといわれる。発達障害の方が絞りに喜んで、集中して取り組んでいる様子がテレビで報じられたのを見たことがある。

人間は何故そんなに急ぐのだろうか。何故ひたすらに効率を求めるのだろうか。そもそも自然のリズムはゆったりしている。明治の西洋に追いつけの文明開化までは、この自然のリズムに合わせる生き方が主流であった。それが自然の恩恵を最大限受ける営みであって、産業としては農林漁業が主体であった。ところが、文明開化以降通信運輸・工業化が進展し、今日の現代文明が築かれているのだ。何事も、どの分野も日進月歩の観がある。そういう中で、分業体制の工場に勤務していた人が、やりがいを得られずに、農業従事に転身し、作物が収穫できるまでの一連の、全体を見れる農業に生き甲斐を見いだせたという話を聞いたことがある。農業の方が「手間がかかる」点では数段上回り、収入の点でも減収になると思うが、そこには何らかの人生の価値観の転換をもたらすものがあつたに違いない。価値観の転換をもたらしたものは何か。筆者はどう思うのかと問われそうだ。

そこで、手間がかかることにやり甲斐や喜びを感じられるのではと考えたい。それは一つものを完成した時の達成感に満たされるからだと思う。自己が全面的に関わる中で成し遂げることができた、「表現の喜び」である。これは人間がそもそも持っている本性ではなかろうか。ものを仕上げる技能が芸術的表現を伴うものであればなおさらである。例えば宮大工の仕事を見ると、普通の住宅建築とは違った「手間のかかる」苦労があると思うが、仕上がった神社仏閣を目の前にすればその喜びは一入であると思うし、氏子や檀家から喜ばれればその喜びは格別である。自分のささやかな体験でも、木工クラフトで「スプーン」を製作した時、やる毎に仕上がりがうまくなり、よくやれたと喜びが湧いてきたものである。それをあげた人にも喜ばれ、それではまた製作してみようとやる気が湧いて来る。つまり、自分が喜ぶだけでなく、他の人にも喜んでもらえることでやり甲斐が増す。そこには喜びの共有がある。その喜びは物づくりにおいて全工程にタッチした時や工程に「面倒くさい」手作業が伴えばなおさらであるといえる。

先に人間の本性という言い方をしたが、人間は己の中に潜む何かを表現したくてうずうずしている。その何かを探し当てて、それをうまく表現出来た時生き甲斐と喜びを感じるのである。今の時代、何でも買って済ますことができるが、何か一つ自分で手作りをして表現の喜びを味わってみてはいかがかと思う。「面倒くさい」と言わずに是非挑戦してみてください。ホームセンターに行くと、材料も小道具も取り揃えてありますので。

今回はこれで終わります。

2020 新年 近郊の山で1年間の登山の安全を祈る

前号の「元旦の計」に従い、近郊の山で体力の保持に務めることにした。

【今回登った山の概要】(百：日本百名山、◎：日本二百名山、○：日本三百名山、う百：うつくしま百名山、数字は標高)

- ① 1月11日(土) 安達太良山 (百、1700m)
- ② 17日(金) 会津磐梯山 (百、1816m)
- ③ 22日(水) 矢大臣山 (う百、やだいじんやま 964.8m、いわき市と小野町の境界の山で、いわき市の最高峰。)
- ④ 31日(金) 大滝根山 (○、おおたきねやま、1192m、う百、花の百名山、新・花の百名山)

① 1月11日(土) 安達太良山

新年初登山として安達太良山に登ることにした。山行は約2ヶ月ぶりなので準備に手間取り、自宅を出たのが8時になってしまった。

奥岳スキー場にはスキーやスノボの車も結構駐まっていた。9時過ぎ、つぼ足で出発。今年はホントに雪が少ない。ところどころ土が見える登山道を登り切り「馬車道」と合流する地点の先は、いつもの年であれば雪が吹き溜まって両脇の樹木は雪に埋没してしまうが、今年は道の形がそのまま残っている。

夏場とたいして変わらない時間で、くろがね小屋に着く。その日はYさんがいて、差し入れとして自宅でもれた大根3本を差し出す。

下山時にまた寄ることにして、ここからはアイゼンを着けて山頂を目指す。何人か先行者がいる。雪が凍みついてアイゼン歩行にちょうどよかった。

峰ノ辻からは風を避けるため稜線の馬ノ背には行かずに一端下り、直接山頂を目指す。青空の下、山頂付近には4~5のグループがいた。

少し傾いでいて雪がこびり付いているお宮に今年一年の山行の安全を祈願する。西方に噴火口を抱えた磐梯山が存在感を示して鎮座し、北には吾妻連峰が山を連ねている。弱いと言っても風はあり気温も低いので、お宮と山頂標識を背景に写真を撮って貰い下山を開始する。

峰ノ辻からは遠く北の方角に蔵王連峰の雪山が望めた。くろがね小屋に寄ろうと思っていたが、夜に行事があることを思い出し、勢至平(せいしだいら)経路で帰ることにして小屋に電話を入れた。電話に出たのはYさんでなく、お客の旧知の人で、泊まって飲みましょうと誘われたが心を鬼にして勢至平を目指す。

雪が少なく、いつもだと雪に覆われる低木が枝を出していて邪魔になり歩きにくかった。登ってくる若い男女のグループとすれ違い話を交わす。彼らの、今宵の濃いイオウ泉と楽しい語らいの一夜を思うと自分も嬉しくなってくる。

15時過ぎ、駐車場着。雪山6時間の安達太良山山行を無事終える。

②17日(金) 会津磐梯山 (昨年3月の「ねじりはちまき」に掲載)

中通りは晴れで、午前中は会津地方も晴れの予報なので会津磐梯山に行くことにした。昨年2月末に妻と二人で裏磐梯スキー場(北塩原村、900m~1200m)から、噴火口跡の一つである銅沼(あかぬま)の上を通り、イエローフォール経由で山頂まで行ったルートをなぞろうとした。(妻は途中で引き返した。)

裏磐梯スキー場は安達太良山の奥岳よりは雪が多い。曇り空で若干暗い感じ。今回は最初からアイゼンを着け9時過ぎにスタートする。スキー教室の中学生が乗っているリフトの下を歩いて行く。

スキー教室はレベルに応じて分けし、さらに20人くらいのグループに分けて指導しているようだ。途中すれ違った生徒に聞いてみたら、茨城県の中学1年生で350人くらい来ているとのこと。

スキー場は携帯が通じていて、野暮用の電話が3本入った。

今年は雪が少なく銅沼の上を通れない可能性を考えて、グレンデ上部中程の斜面から標識に従い「噴火口」を目指し左側の山中に入っていく。

グレンデの最上部から銅沼を通るコースは北側の爆裂火口壁に沿って比較的直線的に進むが、樹林の中の雪道はアップダウンがあり丘陵の形状に応じて不規則にカーブしているので方向の感覚が不安になる。吹雪いているわけではないので踏み跡を信じて進んで行く。

樹林のない雪原に出て、北側の川上温泉登山口からのルートとイエローフォールからのルートが交わる標識のあるところに着いたが、イエローフォールには寄らずに標識に従い火口壁の尾根に取り付く。雪が多くなってきたが新雪ではないのでアイゼンで十分だった。

樹林の中の急登は幅1.5m位を挟んで両側に逆U字の鉄製の柵が頭を出している。この辺は昨年と同じくらい雪がある。樹林帯を抜け出すと右手に荒々しい天狗岩がみえ、櫛ヶ峰から延びてくる稜線に出る。南側の赤埴山や沼ノ平、曇り空にそびえる剣ヶ峯(山頂)を眺めながら順調に高度を稼ぎ、12時過ぎ標高1600mの弘法清水に着く。2軒の小屋は風の流れによってカーブを描いた雪に3分の2ほど埋まっているがここも昨年より雪が少なかった。

少し休憩し、踏み跡のある夏道の入口に向う。登山道の形は明瞭だが両側の低木が雪の重みで覆い被さり、その下をくぐって進むことはできない。昨年は樹木が完全に雪の下になり、道がくぼみとなっていてその上を歩く事ができた。先行者の踏み跡もそこで引き返している。登頂を断念しようかとも思ったが、弘法清水小屋の右脇に踏み跡を見つけたので行ける所まで行くことにした。先行者は一人のようだ。先日の安達太良山と同じく樹木が埋まっていなく枝が出ている

し、踏み抜きもあるので時間がかかる。先行者はもっと大変だったろう。

山頂までもう少しのところ登山者が降りてきた。自分を避けて待っていてくれる間に「寒いね～」と言いながらしきりに手指の屈伸をしていた。やはり自分と同じ裏磐梯から登ってきたとのこと。先行者の苦勞に感謝した。

さらに山頂に近づいた時、大きなザックを背負った熊みたいな若者が降りてきた。聞くと表磐梯の翁島(おきなじま)登山口まではバスで来て縦走し猪苗代スキー場に降りるとのこと。ニコニコ顔で山歩きを楽しんでいる感じ。

山頂に着いたのは13時40分だった。夏道では弘法清水から30分もかからないところが3倍以上の時間を要した。風は弱く雲は高く眺望はきいた。まずは雪をかぶった磐梯明神の祠に今年一年の山行の安全を祈願する。遠く西側の飯豊連峰はさすがに白い。

凍った湖上でのワカサギ釣りのメッカの桧原湖も氷結していなく、今年の裏磐梯の冬景色は全体的に黒っぽい。

14時下山にかかる。踏み抜いたり転んだりしながら30分ほどで弘法清水まで降りて、小屋の陰で立ったままおにぎりを食べる。

下山途中、曇り空が裂けて太陽が顔を出し、火口壁から突き出た天狗岩のギザギザと眼前の樹氷を照らした景観を写真に収めた

16:20 駐車場着、約7時間の磐梯山山行を無事終え帰途につく。

③22日(水) 矢大臣山

20年ほど前に福島県田村地方の町に赴任していた時に、懇意にしていた先輩Hさんからの年賀状に、「病で入院中」との奥様の添え書きがあった。

お見舞いに行く前に、Hさんに誘われて初めて登った矢大臣山に登ることにした。標識に案内された小野町湯沢の登山口は、以前の場所とは異なっていた。11時半出発、ところどころに山頂への標識と「下山口→」の標識があり、以前に利用した登山道は廃道になったらしく、途中で今回の道に左側から合流している跡があった。それ以降は既視感のある風景になった。雪は日影のところでも2~3cmだった。

12:00、麓から聞いたことがあるメロディが流れてきた。小野町出身の作詞家丘灯至夫と福島市出身の作曲家古関裕而の作った「高原列車は行く」だった。春から始まる朝ドラに期待したい。

13時前、携帯電話やテレビのアンテナが林立する広々とした山頂に着く。日当たりのよいところは雪がない。三角点のある石の社にお参りしたあと、大きな展望台からは北側に阿武隈山系最高峰の大滝根山、その右に風力発電の風車が立ち並ぶ山、南西には姿のよい蓬田岳(う百、東北百名山952m)、西に宇津峰山(う百、677m)、北西の樹林の上に高柴山(う百、884m)、が見える。

写真を撮りながら14時過ぎ下山。お見舞いの前に奥様と食事をご一緒し、Hさんの病状などを聞いた。

上半身部を少し上げたベッドに横たわるHさんは、こちらから話すことは分かる。かつてHさんと数人の山仲間とともに登った北海道の利尻山(百)、世界遺産の白神岳(百)の話をしたら涙を浮かべて喜んでくれた。

数日後、写真を登る順序に並べ、簡単な説明を入れたアルバムにして送った。

④31日(金) 大滝根山(平成25年1月の「ねじりはちまき」に掲載)

9時過ぎ、仙台平(せんだいひら)キャンプ場脇の鬼生稻荷神社にお参りし、鬼穴コースを下って行き、舗装路に出て標識に従い左側に30mほど下ったところがいつも利用している登山口だ。車が1台駐まっていた。自分一人でないことに安心する。雪が少ない登山道の落葉を踏みしめて緩やかに登っていくと「ブナ平」に着く。ここから次第に坂になり、岩場が何箇所もありクサリが設置されているところもある。凍っているところは慎重に歩を進める。風が強く北西からの風がゴォーと音を立てて広葉樹の木々を揺らしている。体感はそれほどでない。

山頂の手前で下山してくる人と出会う。ほんの少しずつ積雪が増えていくが航空自衛隊のレーダー基地のある山頂付近でも10cm位で、樹氷の発達もいまいちだった。11時半、「大滝根山峯霊(みねたま)神社」にお参りする。一等三角点のある山頂は神社の背後の金網の中、基地の中だ。

熟年の男性と中年の女性2人のグループが登ってきた。基地南側の送電鉄塔下の作業道を進んで行くと風当たりが弱くなり、眼下に4~5階建ての緑色のホテルのような建物があつた。航空自衛隊入間(いるま)基地大滝根分屯基地のビルで、そこから広い山頂にかけてパラボラアンテナやレーダードームが10基以上建っている。(一昨年の3月に登った福岡県・佐賀県境の背振山(○せふりやま1055m)のレーダー基地よりも規模は大きいのではないか。)これらの風景は阿武隈高地の穏やかな山容とは相容れない光景だ。ただ基地の周囲には震災後風力発電の風車が多くなってきたので阿武隈山地も無粋な光景が多くなってきた。大きな岩の陰でおにぎりを食べてから下山する。

途中傾斜のある岩場の凍っているところに足を乗せてしまい、見事に転んでしまった。ザックがクッションになって直接頭は打たなかった。

車道を横切り、キャンプ場に至る最後の登りで「←鬼穴」の標識があり進んで行くと重なった岩の真ん中に黒い穴が覗いていた。気味が悪いので写真を撮るだけにした。「鬼穴」の前は崖になっているが擬木の囲いが整備されていた。

14時過ぎ仙台平キャンプ場に着く。帰りに三春町の三角油揚を買い求めた。

<会社近況>

長いお正月休みも過ぎ、通常の生活に戻りました。
今年は雪が降らないですねえ、雨ばかりです。
とはいえ、毎日寒いです。お体どうかお大事に。

お正月中にうれしい出来事がありました。
弊社大工の渡辺正吾に第2子が誕生いたしました。(*^_^*)
かわいい女の子でした。♥
…お知らせ…

弊社ホームページの一部、変更いたしました。
昨年お世話になりました新築現場の写真が掲載されています。
ぜひご覧ください。



おいしい♥2月

「かぶ」

スーパーに行くと冬野菜がたくさん並んでいて、どれもおいしそうです。
今月は「かぶ」です。

かぶの根にも葉っぱにも栄養がたくさん。根の部分には、消化酵素のアミラーゼが含まれているので、胃もたれや胸やけを解消する働きや整腸効果があるといわれています。葉っぱの部分はBカロテンやカルシウムやビタミンCなど他にも色々な栄養素が含まれています。ビタミンCが入っているので、風邪予防、疲労回復にも効果的ですね。

サラダや浅漬け、また火を通して食べてもやわらかくなっておいしいです。

令和2年2月5日 発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者>幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
電話 0243-44-3816

<後記>
今月は豆まきがありますね。
大豆や落花生の他にも、キャラメルや
あめ玉など小さなお菓子を用意して
年に1度の豆まきを楽しみたいと
思います。 (事務員k)